

—学校教育目標—

豊かな心をもち

自ら学ぶたくましい子

(1) よく考えねばり強く学ぶ子

(2) 心豊かで思いやりのある子

(3) すすんで体をきたえる元気な子

学校便り

第 3 2 号

仲井真っ子

H30年11月15日(木)

那覇市立

仲井真小学校

発行責任者

校長 宮里 寧

TEL 917-3330

那覇市小・中学校童話・お話・意見発表大会

最優秀賞おめでとう・宮城涼風さん！！



楽しい本との出会いやがんばったこと、心を揺り動かされたことは、自然に自分の言葉で伝えたいくなります。

去る11月7日(水)に第69回那覇市小・中学校童話・お話・意見発表大会が行われました。大会は4会場に分かれ実施されました。低学年の部は小緑南小学校・金城小学校、高学年の部は宇栄原小学校・さつき小学校です。

本校からは、真和志南ブロックの代表として、亀山琉稀(かめやまりゆうき)さん、亀山元徳(かめやまげんとく)さん、宮城涼風(みやぎそよか)さんの3名が出場しました。

今回、最優秀賞に宮城涼風さんがみごと選ばれました。おめでとうございます。

宮城涼風さんは、那覇市の代表として12月14日(金)に行われます県大会(国頭大会)に派遣されることになりました。

県大会でも宮城涼風さんの持っている力が十分発揮できるようみんなで応援したいですね。頑張ってください。

さて、この大会は、戦後間もない1949年・昭和24年に人前で話すのが苦手な子どもたちのために終戦から4年後に沖縄独自に始まったそうです。

音楽やスポーツなど、全国区で活躍する今のウチナーンチュを見たら、設立した屋良朝苗先生もさぞや喜ばれることだと思います。

それでは、最優秀賞を受賞した宮城涼風さんの意見発表を少し紹介します。

【5-1】宮城涼風(みやぎそよか)「祖母の介護から学んだこと」

「お前、障害者だろう」と、ふざけあっていた子が言った一言に激怒した「そよかさん」。その理由がお話を聞いていくうちにわかってきます。

そよかさんの家には、寝たきりのおばあちゃんがいるのです。

そよかさんは、お母さんの代わりに介護を手伝ったりしています。

最初は、おばあちゃんに頭をなでさせるのが嫌だった「そよかさん」。

二十年間、ずっとおばあちゃんのそばで介護を続けてきたお母さん。

そのお母さんから、おばあちゃんの病気の状態をくわしく聞いていくなかで、「障害のつらさや痛み、苦しみ」を理解しようとする「そよかさん」の心の動き、感情がよく表現されています。

そよかさんは、このような体験から、おばあちゃんのような方々の心をいやし、体の病気を治すお医者さんになりたいと将来の夢と希望を語ります。